

初等部4・5・6年

堀内響子・佐藤翠

I. はじめに

自由学園音楽会に出演する4・5・6年生が、東京芸術劇場で発表することの意義をそれぞれが自覚した上で本番に臨みたいと思いました。日本を代表する本物のコンサートホールで小学生が演奏する機会は貴重です。2,000人のお客様を前に、緊張で震えたり頭が真っ白になるかもしれません。それに打ち勝つのは、確かな練習による自信です。舞台の上で自信をもって発表できるように導きたいと思いました。

II. 4・5・6年生の取り組み

ソプラノとアルトのパート決めは、1学期に行いました。前回同様1人ずつの歌声を全員の前で聴き、納得できる形で指導者が決めました。それでも中には希望通りにいかなかった人もいましたが、音楽会はこのパートでがんばろうという子ども達の意気込みが感じられました。

7月に楽譜を配布し、少しずつ譜読みを行っていききました。「How wonderful living together! (生きてるってすばらしい)」は、勢いをもって元氣よく歌い上げることを目指しました。中間部にア・カペラで手拍子をつける部分があり、音程がとりづらく苦労しました。学年をまとめてパートごとに分けて練習をしたり、表現の参考になるような映像を見てイメージを膨らませました。2曲目の「天の川のひとしずく」は、ゆっくりとていねいに、言葉(歌詞)を大切に届ける気持ちで歌いました。どちらの曲も、いのちをテーマにした曲ですが、それぞれ違った視点とアプローチで表現しなければなりません。また、間奏部分がほとんどなく繰り返しもないため、頭と身体をたくさん使って表現することが求められます。難しい挑戦でしたが、意欲的に取り組んだ人が多かったように思います。6年生には、最上級生として下級生を引っ張って行ってほしいとの指導者側の思いから、要求することが多く、お互いの思いが通じ合わないこともありました。合唱は感情を表に出すことで伝わる表現活動なので、気持ちと気持ちがぶつかることもあります。紆余曲折を経て、前

向きな気持ちをもって本番に臨むことができたので、子どもたちの成長を感じました。

11月16日に音楽会総練習、17日に初等部校内音楽会、20日に第31回自由学園音楽会を迎えました。

III. 発表を終えて

当日は、楽屋で佐藤部長による礼拝、発声練習を行いました。迫力ある男子部生のリハーサルを客席から見せていただき、本番のイメージをもちました。そのときの舞台を見つめる子ども達の真剣な眼差しが印象的でした。その後、出入りや立ち位置の最終確認を行いました。あまりの会場の広さに驚いた様子の子も達でしたが、リハーサルから本番さながらの勢いをもって歌いました。

本番は、歌声も表情も気持ちが前に前にと出ていて、子ども達の情熱を感じる事ができました。努力してきたことが実った瞬間です。楽屋へ戻る道をお互いに喜び讃え合いながら歩く子ども達の様子を見て、今回の音楽会で得たものの大きさを感じました。本当によくがんばりました。

4・5・6年生合唱

指揮 堀内響子 伴奏 佐藤翠

- ♪『How wonderful living together! (生きてるってすばらしい)』山本もも作詞、大田桜子作曲
- ♪『天の川のひとしずく』

ミマス作詞作曲、富澤裕編曲



合唱をする4・5・6年